**氷川神社**（ひかわじんじゃ）

[埼玉県](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9F%BC%E7%8E%89%E7%9C%8C)[さいたま市](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%BE%E5%B8%82)[大宮区](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%AE%AE%E5%8C%BA)[高鼻町](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E9%BC%BB%E7%94%BA)にある[神社](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E7%A4%BE)。[式内社](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%8F%E5%86%85%E7%A4%BE)（[名神大社](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E7%A5%9E%E5%A4%A7%E7%A4%BE)）、[武蔵国](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E8%94%B5%E5%9B%BD)[一宮](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%80%E5%AE%AE)を称する（ないし[三宮](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E5%AE%AE%E7%A5%9E%E7%A4%BE)）[勅祭社](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8B%85%E7%A5%AD%E7%A4%BE)。[旧社格](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BF%91%E4%BB%A3%E7%A4%BE%E6%A0%BC%E5%88%B6%E5%BA%A6)は[官幣大社](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%98%E5%B9%A3%E5%A4%A7%E7%A4%BE)で、現在は[神社本庁](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E7%A4%BE%E6%9C%AC%E5%BA%81)の[別表神社](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%A5%E8%A1%A8%E7%A5%9E%E7%A4%BE)。宮中の[四方拝](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%9B%E6%96%B9%E6%8B%9D)で遥拝される神社の1つ。東京都・埼玉県近辺に約280社ある[氷川神社](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B7%E5%B7%9D%E7%A5%9E%E7%A4%BE_%28%E6%9B%96%E6%98%A7%E3%81%95%E5%9B%9E%E9%81%BF%29)の総本社である。他の氷川神社と区別する際は「**大宮氷川神社**」とも呼ばれる。

概要

[埼玉県](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9F%BC%E7%8E%89%E7%9C%8C)・[東京都](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD)の[荒川](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8D%92%E5%B7%9D_%28%E9%96%A2%E6%9D%B1%29)流域、特に旧[武蔵国](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E8%94%B5%E5%9B%BD)[足立郡](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B6%B3%E7%AB%8B%E9%83%A1)を中心にして[氷川信仰](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B7%E5%B7%9D%E4%BF%A1%E4%BB%B0)に基づく氷川神社が多数分布しており、当社はその中心である。「大宮」の地名は、当社を「大いなる宮居」と称えたことに由来する普通名詞から転じたものである。埼玉県周辺の広域から参拝者を集め、正月三が日の初詣の参拝者数（[警察](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AD%A6%E5%AF%9F)調べ）は全国10位以内に数えられる。特に全国的に初詣客が増加した[2008年](https://ja.wikipedia.org/wiki/2008%E5%B9%B4)（[平成](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E6%88%90)20年）以降は毎年200万人以上が訪れている。

神社の境内は、[見沼](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A6%8B%E6%B2%BC)（[江戸時代](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E6%88%B8%E6%99%82%E4%BB%A3)中期まで存在した広大な沼）の畔に位置し、もとは見沼の水神を祀っていたと考えられている。神社の南側に広がる神池（かみいけ）は、神社の西側から涌き出た地下水が溜まったものであり、かつて見沼の一部であった。神社に隣接する埼玉県営[大宮公園](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%AE%AE%E5%85%AC%E5%9C%92)は、[明治](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%8E%E6%B2%BB)期に神社周辺の森を取得して整備したものであり、神社のある小山を見沼の入江が囲んでいた、という地形の特徴をよく保存している。

大宮の氷川神社、[見沼区](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A6%8B%E6%B2%BC%E5%8C%BA)中川の中氷川神社（現 [中山神社](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E5%B1%B1%E7%A5%9E%E7%A4%BE_%28%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%BE%E5%B8%82%29)）、[緑区](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B7%91%E5%8C%BA_%28%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%BE%E5%B8%82%29)三室の[氷川女体神社](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B7%E5%B7%9D%E5%A5%B3%E4%BD%93%E7%A5%9E%E7%A4%BE)は、いずれも見沼の畔にあり、かつ一直線に並んでいる。この三氷川とかつて大宮の氷川神社境内にあった三社（男体社・女体社・簸王子社）がよく混同されるが、別のものである。

祭神　現在の主祭神は次の3柱。

* [須佐之男命](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A0%88%E4%BD%90%E4%B9%8B%E7%94%B7%E5%91%BD)（すさのおのみこと）
* [稲田姫命](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A8%B2%E7%94%B0%E5%A7%AB%E5%91%BD)（いなだひめのみこと）
* [大己貴命](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%B7%B1%E8%B2%B4%E5%91%BD)（おおなむちのみこと）

 [さいたま新都心](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%BE%E6%96%B0%E9%83%BD%E5%BF%83)に近い[吉敷町](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%89%E6%95%B7%E7%94%BA)の[県道164号鴻巣桶川さいたま線](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9F%BC%E7%8E%89%E7%9C%8C%E9%81%93164%E5%8F%B7%E9%B4%BB%E5%B7%A3%E6%A1%B6%E5%B7%9D%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%BE%E7%B7%9A)（旧[中山道](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E5%B1%B1%E9%81%93)）から神社まで、およそ2 [km](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%AD%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%AB)の表参道が、ほぼ南北一直線に延びており、**氷川参道**と呼ばれている。参道上に三つの大鳥居があり、旧中山道と分かれる位置に「一の鳥居」、[県道2号さいたま春日部線](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9F%BC%E7%8E%89%E7%9C%8C%E9%81%932%E5%8F%B7%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%BE%E6%98%A5%E6%97%A5%E9%83%A8%E7%B7%9A)（旧[国道16号](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E9%81%9316%E5%8F%B7)、[岩槻](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A9%E6%A7%BB%E5%8C%BA)新道）と交差した[市立博物館](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%BE%E5%B8%82%E7%AB%8B%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A4%A8)近くに「二の鳥居」、境内入り口に「三の鳥居」がある。参道は2 kmに及ぶ南北直線だが、神社の拝殿、本殿は参道の直線から西にずれており、また南北に対して約30度傾いている。境内に入ると、参道は左手に弧を描き、「神池」を橋で渡って拝殿に至る。

参道は[ケヤキ](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B1%E3%83%A4%E3%82%AD)を中心にした並木に覆われている。30種類680本の木々があり、幹回りが2メートルを超える古木20本を市の天然記念物に指定している（2020 （[令和](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%A4%E5%92%8C)2年）4月現在）。その後2022（令和4年）3月現在、枯死や倒木によって11本に減少した。1722（[天保](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E4%BF%9D)7年）[江戸名所図会](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E6%88%B8%E5%90%8D%E6%89%80%E5%9B%B3%E4%BC%9A)や1790（[寛政](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%9B%E6%94%BF)2年）の氷川神社の絵図面によると、[江戸時代](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E6%88%B8%E6%99%82%E4%BB%A3)には[松](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%BE)が多かったが、[明治](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%8E%E6%B2%BB)以降は[杉](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%89)が主体となる樹木で覆われた（1880（明治13年）の氷川神社図会による）。[太平洋戦争](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%AA%E5%B9%B3%E6%B4%8B%E6%88%A6%E4%BA%89)中から戦後にかけて燃料として伐採され、また参道に自動車を走らせたことから排気ガスで枯死し、汚染に強いケヤキが6割を占めるようになった。歩行者による根元の踏み固め、車による[排気ガス](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8E%92%E6%B0%97%E3%82%AC%E3%82%B9)や振動、建物の高層化による日差しや空気の流れが遮断された影響で木々が弱っている。それに対し、歩行者専用化や並木敷への低木植栽を氷川の杜まちづくり協議会[[17]](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B7%E5%B7%9D%E7%A5%9E%E7%A4%BE#cite_note-17)や氷川参道歩行者専用化検討協議会[[18]](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B7%E5%B7%9D%E7%A5%9E%E7%A4%BE#cite_note-18)が実施し、[2021年](https://ja.wikipedia.org/wiki/2021%E5%B9%B4)（令和3年）に一部の歩行者専用化整備が完了した。

2 kmに及ぶ参道は3つの区間に分かれている。

1. 旧中山道と分岐する**一の鳥居**から[県道214号新方須賀さいたま線](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9F%BC%E7%8E%89%E7%9C%8C%E9%81%93214%E5%8F%B7%E6%96%B0%E6%96%B9%E9%A0%88%E8%B3%80%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%BE%E7%B7%9A)（大宮中央通り、[大宮駅](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%AE%AE%E9%A7%85_%28%E5%9F%BC%E7%8E%89%E7%9C%8C%29)東口の駅前通り）までの約1000 mは道幅が狭く、参道を車道として開放している。歩道と車道は分離されており、自動車は北向きの一方通行である。将来構想として、自動車を完全に排除して、往事の参道に再生することが考えられている。

この区間は、かつて自動車の違法駐車が後を絶たず、また一の鳥居から南大通り（4車線の大通り）まで380 mは狭いながら対面通行であり、歩行者、自転車、双方向の自動車、路上駐車で混乱していた。さいたま新都心が街開きし、参道南部を歩く人が飛躍的に増えたことから、参道再生の一環として、車道部分を通過できるだけの広さにし、残りを御影石風のブロックを敷き詰めた歩道にした。[2002年](https://ja.wikipedia.org/wiki/2002%E5%B9%B4)（平成14年）に第一期（南大通りより北の450 m）が完成、[2006年](https://ja.wikipedia.org/wiki/2006%E5%B9%B4)（平成18年）に第二期（上記の380 m）が完成した。特に第二期は自動車を一方通行に変更するため、数次に亘る社会実験を経て実現した。[2009年](https://ja.wikipedia.org/wiki/2009%E5%B9%B4)（平成21年）に第三期（中央通りより南の約200 m）が完成、全区間の歩車分離が完了した。近隣の代替道路整備が行われたことから、[2019年](https://ja.wikipedia.org/wiki/2019%E5%B9%B4)（平成31年）[4月25日](https://ja.wikipedia.org/wiki/4%E6%9C%8825%E6%97%A5)より、第一期区間が自動車通行止めとなる。

1. 

闇市の名残の氷川神社参道

大宮中央通りから県道2号までの約300 mは「平成ひろば」と名づけられた公園になっている。中央が歩行者用の広い参道であり、その周囲が公園となっている。自動車は「平成ひろば」の両側を南北方向とも一方通行で走ることができる。

「平成ひろば」は、参道を利用していた住宅・店舗の跡地に、[1989年](https://ja.wikipedia.org/wiki/1989%E5%B9%B4)（平成元年）7月に造られた。この住宅や店舗はもともと、[第二次世界大戦](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AC%AC%E4%BA%8C%E6%AC%A1%E4%B8%96%E7%95%8C%E5%A4%A7%E6%88%A6)敗戦後に大宮駅東口に集まっていた闇市やバラック街であり、[1947年](https://ja.wikipedia.org/wiki/1947%E5%B9%B4)（昭和22年）に[駐留軍](https://ja.wikipedia.org/wiki/GHQ)が排除命令を出したため、警察と[大宮市](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%AE%AE%E5%B8%82)、氷川神社の間での取り決めにより同年8月より1年間の条件で参道の一部に移転したものだった。その後40年にわたって生活の場となったために樹木は荒れ、往事の面影は失われた。[1985年](https://ja.wikipedia.org/wiki/1985%E5%B9%B4)（昭和60年）に大宮市によって参道の再生事業が進められ、住宅や店舗は下町の市営住宅へ移転した。

その後、散策路やせせらぎ（2022年現在はない）一方通行の車道や片側歩道を含めた

整備は前述の通り1989年（平成元年）7月に完成し、「平成ひろば」と名付けられた。

1. 県道2号の北に**二の鳥居**があり、神社境内の入り口である**三の鳥居**までの約500 mは往事の面影が残された広い参道が延びている。中央に歩行者用の広い参道があり、東側に対面通行の自動車道がある。参道では毎年[12月10日](https://ja.wikipedia.org/wiki/12%E6%9C%8810%E6%97%A5)に「十日市（とおかまち）」という祭が開催され賑わう。正月三が日にも、多くの出店が立ち並ぶ。

参道の周辺は、二の鳥居の南側では、参道を挟んで西側が官民のビルや大型マンションが建ち並ぶ大宮の中心市街地、東側が区画された住宅地と、街並みが大きく異なっている。神社に近い二の鳥居の北側では、勅使斎館等の行事施設や市立博物館が並ぶほかは閑静な住宅地であり、特に神社と参道の周辺は風致地区として、建築制限が課せられている。